

44. ナコンシータマラート県



ナコンシータマラート県は、バンコクから南へ約780キロ離れた位置にあります。

9942平方キロメートルの面積を有し、北はスラタニー県、南はパッタラン県、ソクラー県とトラン県、東はタイ湾（シャム湾）の海岸線に面し、西はスラタニー県とクラビー県に接しています。

ナコンシータマラートは、歴史的に東南アジアの中で政治面、経済面、宗教面において重要な役割を果たした古い都市の一つです。

インドとの交易が盛んであったことが推測される石斧、青銅の太鼓、青銅の仏像等インド様式の遺物が多く発見されており、12世紀から14世紀にかけては、商業と仏教の中心地であったと伝えられています。

225kmもの南部地域で最も長い海岸線を持つ同県は、沿岸漁業や養殖漁業が盛んなのは勿論ですが、農業も盛んで、パラゴム・コーヒー・米・ココヤシ・ドリアン・マンゴスチン等の栽培地域としても有名です。



ワット・マハタート・
ウオラマハウィハーン

県内には、歴史的建造物として有名な仏教寺院、ワット・プラ・マハタート・ウオラマハウィハーンがあります。敷地内には、12世紀に建てられたと推測される、先端が純金で作られた55.78mの高さを誇る仏塔があります。又、同県はアユタヤ王朝時代に数々の功績を揚げオーク・ヤー（最高の官職）を与えられた山田長政（タイ語名：オーク・ヤー・セナー・ピムック）が、1629年に国王より領主として任じられた場所としても知られています。

現在の県庁舎付近に山田長政の居宅の痕跡が残されています。

同県の特産品としては、古くからタイ南部地域の宗教・芸術・文化の中心地として栄えていたため、ヤンリパオというつる草で編んだバックやニエロ細工（黒金象眼細工）・銀製品などの伝統工芸品が多くあります。なかでも同県のヤンリパオのバックは名声を博しています。

